

イングランド銀行の貸出促進スキームの影響～日本銀行の貸出促進スキームとの比較 において～（報告要旨）

本稿は、イングランド銀行（BOE）が金融機関の貸出増加を促すために行った、貸出促進スキームの特徴および効果を、日本銀行の貸出促進スキームとの比較を通じて、分析検討した。

BOE は 2009 年 3 月に政策金利を 0.5%にするとともに、量的緩和（QE）を導入した。リーマンショック後の英国では貸出の伸びておらず、2012 年に導入した QE3 と同時期に貸出促進スキームを導入した。BOE が 2012 年に導入した貸出促進スキームは財務省短期証券を低い手数料で貸し付けるスキーム（FLS）であった。その後、英国の EU 離脱の国民投票後には低利で長期の資金を貸し付けるスキーム（TFS）、コロナ蔓延時には中小企業向け貸出を対象としたスキーム（TFSME）が導入された。

斉藤・高橋〔2020〕にて、FLS に参加した金融機関の貸出の増加が小幅に止まっていたことが確認された。それに対して、TFS および TFSME 時の参加金融機関による貸出増加の方が大きいことが確認された。金融機関へのアンケート調査などの貸出関連の指標を確認すると、TFSME 時により顕著な数値の改善が確認された。ビッグフォーなどの大手金融機関による各貸出スキームの利用状況や貸出増加を確認すると、TFSME が活発に利用され、貸出増加も大きいことが確認された。

日本銀行も複数の貸出促進スキームを導入している。本稿では、日本銀行の各貸出促進スキームは成長基盤支援資金供給、貸出増加支援資金供給、新型コロナ対応特別オペを対象とした。日銀の貸出促進スキーム実施以降、日本の金融機関による総貸出平残は持続的に増加していることから、判然としないながらも貸出増加に寄与したと考えられる。

名目 GDP 対比でみると日銀の貸出促進スキームの方が規模は大きい傾向にあり、特にコロナ蔓延時に顕著となっているのが確認された。これらを踏まえつつ、田中〔2023〕による各貸出促進スキームの制度設計をもとにした類型化に加え、各スキームを危機対応目的、貸出増加目的、またはその両方を目的としているスキームの 3 つに類型化し、貸出促進効果との関係を確認した。その結果として、貸出促進スキームが貸出増加に効果を与えるうえで、資金需要と制度設計が重要であることを明らかにした。